

(案)

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学  
平成 28 年度 業務実績に関する評価報告書



平成 29 年 11 月  
山陽小野田市公立大学法人評価委員会

# 目 次

第 1	平成 28 年度の業務実績評価について	.....
第 2	評価結果	.....
1	全体評価	.....
2	大項目別評価	.....
3	事業単位・指標単位評価	.....
《参考》		
	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の 業務実績評価実施要領	.....

## 第1 平成28年度の業務実績評価について

山陽小野田市公立大学法人評価委員会は、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学（以下「法人」という。）の平成28年度における業務の実績に関する評価を行った。

### 1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価にかかる業務が法人の過度の負担とならないように留意する。
- (6) 評価に仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

### 2 評価方法

業務実績評価は、「全体評価」、「大項目別評価」、「事業単位・指標単位評価」により行った。

#### (1) 全体評価

事業単位・指標単位評価及び大項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

#### (2) 大項目別評価

事業単位・指標単位評価の結果を踏まえ、6つの大項目（15区分）ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

#### (3) 事業単位・指標単位評価

年度計画に記載された事項ごと（事業単位）及び評価指標ごと（指標単位）の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

## 第2 評価結果

### 1 全体評価

#### (1) 評価結果

中期計画の進捗は概ね順調である

#### (2) 評価理由

##### ア. 総括

平成 28 年度は公立化初年度ということで、大学運営については、これまでの私立大学時代とは違った公立大学として新たな取組を進めていかなければならなかったため、教職員においては大変な苦労があったものと思われる。法人から提出された平成 28 年度の業務実績報告書に基づいて行った評価委員会の事業・指標単位評価においては、年度計画の全 88 項目のうちの約 99%の 87 項目が「a 評価：年度計画を上回る」又は「b 評価：年度計画を概ね実施」とされており、年度計画どおりに実施されていることが認められる。

その内訳を見てみると、「a 評価」が 34 項目で約 39%、「b 評価」が 53 項目で約 60%となっており、全体的には、中期計画の達成に向けて着実に取組が進められていると評価できる。また、大項目別評価（6 項目）のうち、「A 評価：中期計画の進捗は順調」が 1 項目、「B 評価：中期計画の進捗は概ね順調」が 5 項目であることから、年度計画を上回る取組が見受けられるものの、その取組の多くが年度計画どおりに実施されているものと判断した。

なお、目標の設定が「～について検討する。」等、その成果を評価する上で十分理解できない項目があると指摘してきたが、実績の記述においても評価の判断基準が不十分な項目が散見された。また、年度計画に対する実績の記述が具体的でない項目や年度計画に対応していない項目も見受けられた。このため、年度計画の目標設定に当たっては、可能な限りその成果を判断する根拠となる目標の数値化を図り、実績の記述については年度計画に対する具体的な内容を記載するなど、第三者が十分に理解できる評価の判断根拠の明確化に一層努めていただきたい。

これらのことから、中期計画の達成に向けて年度計画を着実に進めているものと認められ、中期計画の達成に向けた取組は、概ね順調に進められているとの評価が相当と判断した。

今後、平成 30 年度には薬学部の開設、平成 31 年度には公立化後に入学した学生が卒業を迎え、地域社会への貢献や卒業後の社会での活躍を通して、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が問われる。そのため、

教育・研究・社会貢献という大学の機能を最大限に高める必要があり、教育と研究の最高執行責任者である学長がリーダーシップを発揮し、教職員の意欲と能力を最大限に引き出していくことが重要である。その結果として、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が一層高まることを期待し、全体評価の総括とする。

## イ. 今後に対する意見

業務実績に対する自己評価については、市民目線に立った分かりやすさの観点が求められる。このため、曖昧な表現をできるだけなくし、数値化などにより具体的な目標設定を行い、実績についてもどのような取組をしたかを具体的に分かりやすく記述することが大切である。また、難解な語句等の使用は極力避け、やむなく使用する際は、注記で説明する等、分かりやすい表現を心掛けることが望まれる。

また、評価委員会が適切な評価を行うためには、計画の進捗度を評価するのか、改善の成果を評価するのか、何について評価をするのかが判断しやすいよう、年度計画を策定する際には、適正な目標設定に努めていただきたい。

全体評価	大項目別評価						評価項目数
	大項目（6区分）	評価結果	A 中期計画の 進捗は順調	B 中期計画の 進捗は概ね 順調あああ	C 中期計画の 進捗はやや 遅れている	D 中期計画の 進捗は遅れ ているああ	
中期計画の 進捗は概ね 順調	I. 教育研究等の質の向上に関する目標 I. を達成するための措置	A	○ 22	11	1		事業評価 28 指標評価 6
	II. 地域社会との連携、地域貢献に関する II. る目標を達成するための措置	B	7	○ 9			事業評価 14 指標評価 2
	III. 業務運営の改善及び効率化に関する III. 目標を達成するための措置	B	4	○ 17			事業評価 21
	IV. 財務内容の改善に関する目標を達成 IV. するための措置	B		○ 7			事業評価 7
	V. 自己点検、評価及び当該状況に係る V. 情報の提供に関する目標を達成する V. ための措置	B		○ 4			事業評価 4
	VI. その他業務運営に関する重要目標を VI. 達成するための措置	B	1	○ 5			事業評価 6

## 2 大項目別評価

### (I) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

[No.1～No.28]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、34項目のうち、a評価が22項目、b評価が11項目、c評価が1項目であり、順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>A</b> (進捗は順調)
-------------	--	---------------------

#### ※ 評価委員会の評価 [全体の項目数：34]

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	22	64.7%	11	32.3%	1	3.0%	0	0.0%
法人	21	61.8%	12	35.2%	1	3.0%	0	0.0%

#### ★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 英語教育の強化を図り、英語による授業の拡大・充実を行うため、専任教員の公募を行い、平成29年度から着任することを予定している。【No.3】
- (2) 国際感覚を備えた人材を養成するため、短期留学制度の導入についての検討を行い、平成29年度からアメリカ、オーストラリア、インドネシアの各大学への短期留学制度を導入する予定で、学生に海外で学ぶ機会を設けている。【No.5】
- (3) 志願倍率を6.5倍以上と目標設定していたが、目標を大きく上回る13.6倍の志願倍率となっている。今後も引き続き、学生募集活動に積極的に取り組まれるとともに、多くの学生に受験していただけるよう教育研究活動のレベルアップを期待する。[1]

#### ▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1)

(Ⅱ) 地域社会と連携、地域貢献に関する目標を達成するための措置

[No.29～No.42]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、16項目のうち、a評価が7項目、b評価が9項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>B</b> (概ね順調)
-------------	--	--------------------

※ 評価委員会の評価〔全体の項目数：16〕

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	7	43.7%	9	56.3%	0	0.0%	0	0.0%
法人	7	43.7%	9	56.3%	0	0.0%	0	0.0%

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 地域連携センターの窓口として地域連携室を設置している。この地域連携室を中心に関係機関と連携し、地域社会の動向やニーズを把握し、企業や地域社会との連携を図り、地域貢献活動の推進体制を強化している。【No.29】
- (2) 市や商工会議所の各種委員会、審議会の委員として参加し、地域の抱える課題を把握し、課題解決に積極的に取り組み、高等教育機関の役割を果たしている。【No.37】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 目標を前年度の「かがく博覧会」参加者数以上と設定しているが、「かがく博覧会」を開催することによりどのような効果を期待し、そのためにはどのような取組をするのかを記述した方が「かがく博覧会」開催の目的が明確になる。
- (2) 目標を前年度の講座受講学校数である11校以上と設定しているが、講座を開くことによりどのような効果を期待し、そのためにはどのような取組をするのかを記述した方が、講座開催の目的が明確になる。



(Ⅲ) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

[No.43～No.63]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、21項目のうち、a評価が4項目、b評価が17項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>B</b> (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の評価 [全体の項目数：21]

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	4	19.0%	17	81.0%	0	0.0%	0	0.0%
法人	4	19.0%	17	81.0%	0	0.0%	0	0.0%

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 媒体物の見直しを行い、広告活動の推進の結果、入学定員に対して志願者が上回っている。【No.49】
- (2) 東京理科大学と連携協力協定を締結しており、連携協力を行うことを予定している。また、職員の出向や研修会を開催している。

【No.55】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1)

(IV) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 [No.64～No.70]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、7項目の全てがb評価であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>B</b> (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の評価 [全体の項目数：7]

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	0	0.0%	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
法人	0	0.0%	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 外部資金獲得支援体制の充実に努めている。 【No.65】
- (2) 総務課内に研究支援担当を配置し、外部資金及び競争的資金の情報を研究者に配信している。 【No.67】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 外部資金獲得支援体制の充実に積極的に取り組むことができる体制を構築し、教育研究活動の質の向上につながることを期待する。 【No.65】
- (2) 適正な予算編成と厳格な予算執行により健全な大学運営が行えるよう、職員の意識改革への取組及び組織づくりが積極的に行われることを期待する。 【No.68】

(V) 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置 [No.71～No.74]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、4項目の全てがb評価であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>B</b> (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の評価 [全体の項目数：4]

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
法人	0	0.0%	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 各認証評価機関の説明会に参加し、受審する機関を決定している。

【No.71】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 大学の自己点検・評価システムの改善に今後も引き続き取り組み、その自己点検・評価の結果が確実に大学運営の改善に反映されることを期待する。 【No.73】
- (2) 自己点検・評価及びその結果を含め、大学の各種情報の公表には積極的に取り組まれることを期待する。 【No.74】

(VI) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 [No.75～No.80]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、6項目のうち、a評価が1項目、b評価が5項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	<b>B</b> (概ね順調)
-------------	---	--------------------

※ 評価委員会の評価 [全体の項目数：6]

	a		b		c		d	
	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	構成比
評価委員会	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%
法人	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 防災・BCP検討タスクフォースを設置し、災害時の震災マニュアルを作成や、災害に被災したことを想定し、必要と思われる点についての報告書を作成し、教授総会で周知を行うなど、危機管理体制の整備に進捗が見られる。 【No.80】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 施設及び実験機器の整備については、教育研究活動に支障がないよう、安全対策を優先する中で緊急性の高い工事から計画的に進めていきたい。 【No.75】
- (2) 学生・教員が安心して教育研究活動を行うことができるよう、施設及び環境の整備を今後も積極的に実施していただきたい。